

(様式第4号)

上田市子ども・子育て会議 会議概要

1 審議会名	平成26年度第2回上田市子ども・子育て会議
2 日時	平成26年6月2日 午後1時00分から午後3時00分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ庁舎 2階 多目的ホール
4 出席者	金山会長、堀江副会長、石井委員、神原委員、田口委員、丸山委員、水野委員、矢ヶ崎委員、清水委員、下村委員、竹内委員、田畑委員、牧内委員、大塚委員、白瀬委員、宮下委員、宮本委員
5 市側出席者	田口こども未来部長、宮澤保育課長、倉島学校教育課長、樋口子育て・子育て支援課長、唐沢保育課長補佐、堀内保育担当係長、白鳥放課後こども育成係長、小林子育て・子育て支援課長補佐、堀内子育て・子育て支援担当係長、羽毛田子育て・子育て支援担当係長、吉澤子育て・子育て支援担当係長、宮沢保健推進係長、市川保育課主査、井出子育て・子育て支援課主査、古畑子育て・子育て支援課主査 その他 アンケート調査に関する分析業務受託者「株式会社ぎょうせい」職員
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成26年6月2日

協 議 事 項 等

1 開 会 (保育課長)

2 議 事 (金山会長)

(1) 全体会

- ア 上田市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査集計報告書について
分析業務受託者「株式会社ぎょうせい」職員、事務局が【資料1】により説明。

質 疑

(委員) 低学年 就学後の放課後の過ごし方 (P44 問38 就学前児童家庭への設問)について、複数回答を求める設問となっている。一概にこの結果が現実と一致しているとは言えないのではないか。

(事務局) 御質問のとおり、複数回答は一概に実情を正確には反映しているとは言い切れない。他の全ての質問においても、パーセントが高い、低いだけの視点で計画を立てるものではないと考える。策定内容について、パーセントが高いものは検討し、低いものは検討しないということではないと考える。

(委員) 低学年 就学後の放課後の過ごし方 (P75 問16 小学生家庭への設問)について、「無回答」が48.1%と最も多い。何か理由はあるのか。

(事務局) ここでの「無回答」の高さについて理由は不明。

(委員) 地域子育て支援拠点事業の利用状況 (P9 問12 就学前児童家庭への設問)について、「利用していない」との回答が66.9%となっている。0歳から5歳までの就学前児童全体における利用率は低いと認識されてしまう。他の自治体で、3歳から5歳までは「利用していない」90%と言い切っているところもある。しかし、0、1、2歳における利用率を見ることが出来れば、利用率は違った回答になるのではないか。子育て支援に携わる現場の人は、多くの親子に利用され

ているとの認識を持っている。

(委員) 市内における子育て環境や支援についての満足度(P 60 問 47 就学前児童家庭への設問)
(P 91 問 24 小学生家庭への設問) について、この会議の目的の一つに「満足度」を上げる
ことも含まれていると考えている。「満足度が低い」と回答した人の分析は可能であるか。

(事務局) 今回の設問分析だと困難である。各設問におけるパーセントの低いものにそのヒントがあると
思われる。

(委員) 県内の自治体と比較すると、上田市の子育て支援施策は手厚く実施されていると考えているが、
満足度というものは子育ての当事者である親の認識で上下すると考えられるので、評価をするの
は難しい設問であると思う。

(委員) 現場の体制整備についてお話したい。病院、幼稚園、保育園などをはじめとする子育て支援の
現場は、子どもに対する職員の配置基準があると思う。

国・内閣府の社会保障の資料を見ると、民間施設に関する処遇改善費が盛り込まれているもの
の、現場のお話をお聞きすると人員体制等について大変厳しいものがあると感じる。人員体制の
厳しさは、子どもの痛ましい事故につながりかねない。また、子どもの事故防止という視点で、
医療機関における保育職員の研修実施が出来ると思う。

保護者が安心して子育てが出来、子どもを預けられる場所になるよう社会・地域の支援が必要
であると強く感じている。

(委員) 現場の声に耳を傾けることは大切。子ども、保護者、そして働く職員の意見を聞くことは、計
画策定においても重要なことであると思う。

イ 地域子ども・子育て支援事業について
事務局が【資料 2、3】により説明。

(2) 部会

ア 保育教育部会

保育の現況について他

イ 放課後児童対策部会

学童保育所視察他

ウ 子育て支援事業部会

子育て支援事業の現況について他

3 閉会